

# デジタルアーカイブサロンのご紹介

## 1. デジタルアーカイブサロンとは

- ・アート・ドキュメンテーション学会 (Japan Art Documentation Society / JADS) の会員およびJADSに共感を持つ人々、学生が月に1回集まり、お酒を飲み交わしながら、最新デジタルアーカイブについての技術やコンセプトの情報を交換しあう場所(サロン)とする。
- ・日本全国の博物館、美術館、文書館等に対して、最新技術と知見で、効率的、適正、あるいは低価格によるデジタル化、およびデジタルアーカイブ化に貢献するための相談窓口、受け皿となる。

## 2. 設立の経緯と目的①

2009年、JADSの20周年のとき、創設から10年はそれなりに貢献できたが、15周年から20周年にいたる過程で何も貢献できていないことを思い、そろそろ動き始めるか、と決意。

システムインテグレータやデータベース、WEB技術に関心を持つ者がもっと力を発揮できる場所があるのではないかと。まずは、そのようなことをザックランに話し合える場を作ろうということ、飲み会をいこうと立ち上げる。

「研究会」という名称にするか、それとも「サロン」にするかを準備会でも話し合い「デジタルアーカイブサロン」という名称にすることを決定する。

## 2. 設立の経緯と目的②

2009年12月21日 設立準備会資料から

### 目的

・日本と諸外国のデジタルアーカイブをながめながら様々な技術的課題や特長などを話し合いつつ、日常業務やビジネスの参考にする。

### 対象メンバー

・JADSの会員を中心に、非会員でも可(今後の会員拡大の観点より)

### 形態

- ・毎月1回(第2~第4火曜日?) 年8~10回程度
- ・午後6時くらいから集まり、6時30分開場
- ・午後8時に終了して、そのあとは酒飲み会
- ・午後10時解散
- ・場所は当面ラティオインターナショナル会議室(2階or5階)
- ・1回につき日本と諸外国のデジタルアーカイブを2つから3つ取り上げて、利用者および管理者の立場から出所した視点や感想、そこから見えてくる課題などを話し合い、その報告を通信に掲載していく。

## 2. 設立の経緯と目的③

2009年12月21日 設立準備会資料から

### 活動形態

- ・まずは毎月1回の会合を申し込みにできるものにする。「良い飲み会、サロン」を作る
- ・疑問に思ったことなどは丁寧に基本集、初歩的に教えてもらうこともまずはお願いして、議論する。業界で聞くと同じ言葉でも違う意味やニュアンスがある。お互いにかかっているような違う解釈をしていることよくある
- ・デジタルアーカイブを見る場所としては以下のように区別する
- ・利用者の視点で区別1. 閲覧者、利用者の視点から区分けされる
- ・研究者・一般利用者、リサーチ(学術研究や一般、あるいは)
- ・管理者の視点で区別2. 閲覧者、研究者、利用者、管理者、制作者(システムエンジニア)の区別
- ・本来の仕事とできるか、何を準備できるか、提供できるなどの視点を持つ「閲覧者」というものも、そこから何を区別して実現する必要があるのかをいかに見極めたい。そこから思いついたことを考えを行動や提案していく。
- ・ただし、見守る。まずは疑問点などもそのまま聞いていくのを大切に。毎日1回もはあつた方がいい。教えてもらったのだからすぐに伝えておきたい。

## 3. どんなことをしてきたか①-0

大きく8つに分類できる。

- ①日本と世界のデジタルアーカイブを見る
- ②夏の番外編は見学会と暑気払い
- ③文化遺産オンラインへの注目-日本版ヨーロッパ(JAPANサーチ(仮称)への関心)
- ④傾斜検索のためのデータ標準化や高解像度DBの検討
- ⑤東日本大震災を契機に災害対策、防災対策、そして支援
- ⑥図書館、文書館の情報化とデジタルアーカイブ化
- ⑦LOD・オープンデータの活用は新たな地平を切り開くための方策の検討
- ⑧その他

## 3. どんなことをしてきたか①-1

日本と世界のデジタルアーカイブを見る

- 前年度活動の振り返りとしてデジタルアーカイブサロンの活動として、デジタルアーカイブ研究会が主催される大学祭イベントにも注目した。
- 第1回 2010年1月12日(火) 参加者10名
    - ・「日本文化遺産オンライン」、「クワットラ・美術館 HAL9000」ほか4つのサイトを基盤からの議論
  - 第2回 2010年2月9日(火) 参加者9名
    - ・国立国会図書館、デジタル文化遺産研究会の見聞からの議論
  - 第3回 2010年3月9日(火) 参加者7名
    - ・デジタルのデジタルコンテンツグループ、European ELの総合デジタルアーカイブほかを見聞からの議論
  - 第4回 2010年4月13日(火) 参加者8名
    - ・グアム99年、国立西洋美術館(Touch The Museum)ほかを見聞からの議論
  - 第5回 2010年5月11日(火) 参加者7名
    - ・PPIE研究会の議論を踏まえてデジタルアーカイブの保存、配信に関する課題について議論
  - 第6回 2010年6月8日(火) 参加者6名
    - ・国立国会図書館と国立国会図書館利用法、中国美術情報を中心として(遠田博典氏/国文学研究資料館)第1回(以後毎月3回まで継続)ほか

## 3. どんなことをしてきたか②-1

夏の番外編は見学会と暑気払い

- 8月は、お盆休みで参加者も少ないと予想されるので、番外編として暑気払いを開催して普段と違う場所に出かけて見学会と懇親会を行うようになりた。
- 番外編 2010年8月12日(火) 参加者11名
    - ・国立西洋美術館「Touch The Museum」参加体験
    - ・東京芸術大学附属図書館見学会
    - ・場所：国立西洋美術館(東京芸術大学附属図書館)
  - 番外編(2011年度その3) 2011年8月9日(金) 参加者6名
    - ・お盆休みを前に参加して、個人アーカイブを見学しつつ懇話
  - 番外編(2012年度その1) 2012年8月10日(金) 参加者6名
    - ・代官山麓は藝文「見学ツアー」
    - ・「本」と「絵巻」と「音楽」など様々なものを紹介する新しい「面白」5講義を見学
  - 番外編(2013年度その1) 2012年8月23日(金) 参加者12名
    - ・日南博物館見学
    - ・VRシアター見学/西中道外郎展覧(舟木大)ほか

## 3. どんなことをしてきたか③-1

文化遺産オンラインへの注目

- 文化庁が主催する日本における文化財情報検索ポータルサイト、「文化遺産オンライン」に注目して、これを契機に各館のデータベース化、および連携が可能な構築する、このほかにも各館の展覧などの検討や情報連携と検討も行う。
- 第9回 2010年10月12日(火) 参加者33名
    - ・文化遺産オンラインの現状と課題(丸川健三氏/国立情報学研究所)
    - ・緊急討議「元英日日本電話史料」という特別展に関するリアクションコメントに関して
    - ・高沢と兵/文化庁文化財部伝統文化課 文化財保護課調整室長
  - 第18回 2011年10月28日(金) 参加者18名
    - ・「文化遺産オンライン」今後の展開と発展可能性(高尾健二氏/文化庁文化財部伝統文化課)

## 3. どんなことをしてきたか④-1

傾斜検索のためのデータ標準化や高解像度DBの検討

- 本館を他館の情報連携サイトとするためのデータの標準化や高解像度DBの検討をプロットした。以下に示す。
- 第11回 2010年12月9日(火) 参加者27名
    - ・国立国会図書館の標準化の考え方について(遠田博典氏)
    - ・山崎タマ子氏/石巻の国立女子大学、宮田和夫氏/東京大学大学院情報学術院
  - 第15回 2011年6月17日(金) 参加者29名
    - ・国立国会図書館システムと連携の提案(その1)
    - ・東京芸術大学附属図書館見学会(舟木大氏/東京芸術大学)
    - ・サービスエッセンス情報学研究所の傾斜検索システム(高尾健二氏/CBS情報)
    - ・ユネスコのオープンソースデジタルアーカイブソフト(山口ヨシ子/国立国会図書館)
  - 第22回 2012年2月9日(金) 参加者15名
    - ・文化財のデジタル化に関する課題
    - ・文化財の標準化とデジタル化技術とその応用/高解像度DB構築、文化財の収録、表示、保存等(遠田博典氏/石巻製作所、米澤氏/日立製作所)

## 3. どんなことをしてきたか④-2

傾斜検索のためのデータ標準化や高解像度DBの検討

- 第33回 2013年11月1日(金) 参加者19名
  - ・文化遺産オンラインの活用状況に関する特別座談会開催からの
  - ・2012年度後半研究発表会で発表された内容について(インターナショナル)「傾斜検索を契機として各館の標準化と連携」をテーマにした特別座談会/東京大学大学院情報学術院、山崎タマ子氏、東京大学大学院情報学術院、山崎タマ子氏、東京大学大学院情報学術院
- 第34回 2013年4月12日(金) 参加者16名
  - ・「Touch The Museum」参加体験/デジタル文化遺産研究会
  - ・東京芸術大学附属図書館見学会/舟木大氏/東京芸術大学
  - ・文化遺産オンラインの現状と課題(丸川健三氏/国立情報学研究所)としたデジタルアーカイブとデジタル文化遺産の活用、高尾健二氏について
  - ・高尾健二氏/国立情報学研究所
- 第35回 2013年9月3日(金) 参加者12名
  - ・文化遺産オンラインの活用状況に関する特別座談会開催からの
  - ・2012年度後半研究発表会で発表された内容について(インターナショナル)「傾斜検索を契機として各館の標準化と連携」をテーマにした特別座談会/東京大学大学院情報学術院、山崎タマ子氏、東京大学大学院情報学術院